

# 県民の命を守るために…

静岡県は6月27日、国による南海トラフ巨大地震の被害想定との整合性を図るとともに、様々な専門家による提言等を踏まえた上で、第4次地震被害想定第一次報告を公表しました。

この報告では、駿河トラフ・南海トラフ沿いと相模トラフ沿いで発生するレベル1とレベル2(注)の地震及び津波による震度分布や津波高、浸水域等の想定結果と、それらによる人的被害や物理的被害の想定結果を、分かりやすく明記。

そして、この第一次報告で推計された被害をできるだけ軽減するため、「地震・津波対策アクションプログラム2013」も併せて取りまとめ、公表しています。例えば、冬の深夜にレベル2の地震が発生するという悪条件での人的被害想定は、津波による死者数が約96,000人とされていますが、防潮堤等の対策により約48,000人まで減らせると算出しています。レベル2の場合には、途方もない驚愕の数字になってしまいますが、とにかく静岡県としては、まずはレベル1の津波による被害を8割減少させようという目標を設定し、今後10年間で4,200億円を投資していく予定です。

下記に、こうした対策を行った場合の減災効果シミュレーション(中区版)を添付しました。白黒なので鮮明ではない部分もありますが、感覚的に減災施策の大切さがお分かりになるかと思えます。より詳しいデータをご希望の方は、静岡県のホームページからご覧頂けますので、是非ご活用下さい。

# 祝 富士山世界文化遺産登録!!

6月22日、カンボジアのプノンペンにおいて、日本国民の悲願であった富士山の世界文化遺産登録が正式に決定されました。

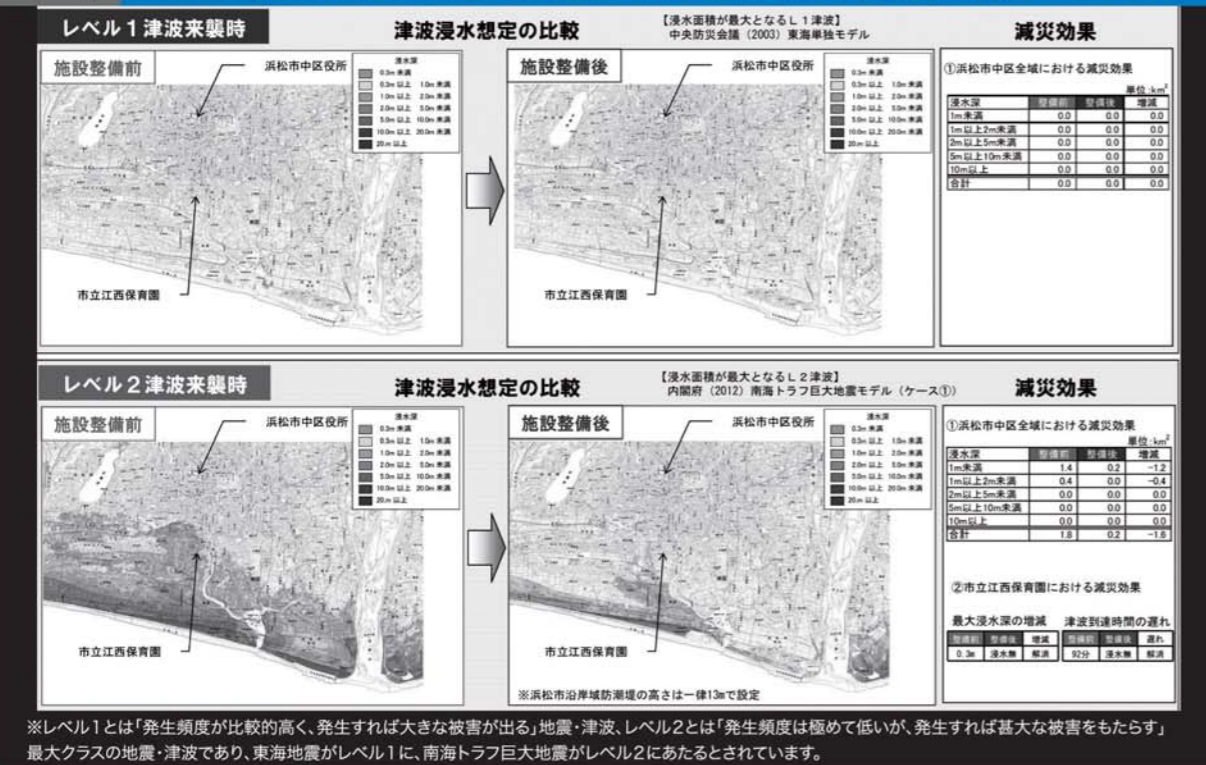
これまで長きにわたってご尽力なされた静岡県と山梨県の関係者はもちろんのこと、富士山を愛する全ての方々に心からお祝いと敬意を申し上げたいと思います。ただ、これで終わりではありません。2016年2月までには、ユネスコの世界遺産センターに保全状況報告書を提出しなければなりませんし、それに向けての環境保全策、例えば入山料の設定の問題についても結論を出していく必要があります。

国民会議が掲げるテーマである「いつまでも富士山を世界遺産に」するためには、たゆまぬ努力が必要なんです。しかし一方で、富士山が本県にとっての文化や観光振興の起爆剤になることは確実です。これを機に、ますます元気な静岡県、魅力あるふじのくにを創造できるよう、私たちが知恵を出していきたいと思えます!!

山崎真之輔



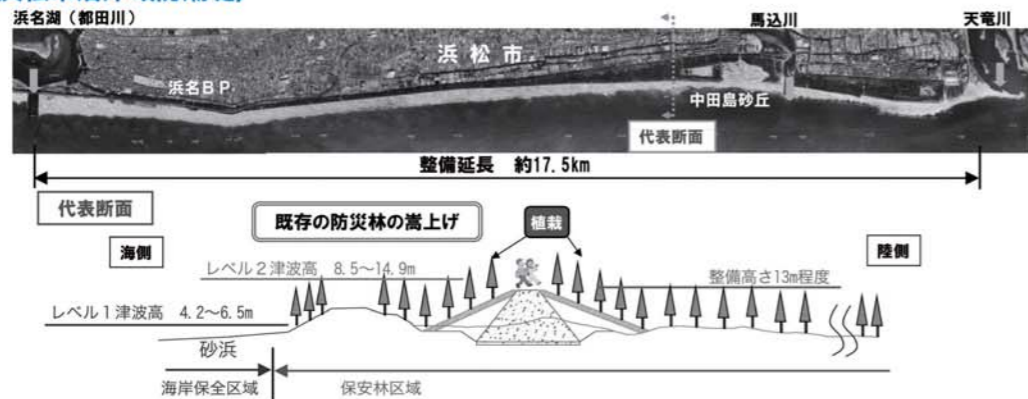
## 参考 レベル1津波対策の施設整備による減災効果 浜松市中区



また、静岡県は長大な沿岸域を有しており、地域によって置かれている課題は様々です。この浜松地域においても、レベル1の津波には耐えられても、レベル2の津波には現時点では太刀打ちできません。そこで、地域住民の合意などの条件が整った地域では、既存の防災林、砂丘、道路のかさ上げ・補強等による、より一層の安全度向上策を進めるべく、その検討会を沿岸市町において設置していきます。これを、「静岡モデル」と言います。

既に浜松市では、民間からの多額の寄附により、先行的に防潮堤の築堤を始めていますが、こうした「静岡モデル」との連携を取りながら、県や国の協力を引き出せるようにしていきたいと思えます。

### ■事例(浜松市沿岸域防潮堤)



## 真の目 3.11の教訓を生かせ!



と思います。さらには、国と地方の関係も同様です。この度の防災対策を施していくにあたり、政府は各自治体に対し、本来は地方固有の一般財源である地方交付税を人質に取る形で、公務員給与の削減を迫りました。もちろん、未曾有の災害に対する緊急的な措置であることは十分承知しています。しかし、地方では既にコストカットを進めていますし、何より「地方自治を醸成し、より豊かな社会を作るため」という地方分権の理念に反する行為だと私は感じました。

市町、県、国。この関係のあり方については未だに議論は尽きませんが、少なくとも3.11を経験した私たちは、後戻りすることなく、より成熟した社会の構築のために、それぞれがそれぞれの立場で役割を果たしていく必要があると思えます。

川勝県政二期目の船出を祝福するかのよう、富士山の世界文化遺産登録が決まり、一方で、108万票という県民からの負託が重圧になるかのように、地震・津波対策アクションプログラムが速やかに動き出しました。どちらも、課題が山積みではありますが、共通して言えることは「東日本大震災の教訓を生かせ」ということです。と言っても、単に防災力を強化せよということではありません。3.11の本質的な教訓は、「自助・共助・公助」のバランスを考え、責任と役割を適切に分担することだと私は認識しています。地震や津波から生命財産を守るためには、まずは家屋が倒壊しないような措置をしておく、校区で避難所運営の訓練を行っておく。こうした自助と共助の取組が欠かせません。また、いつまでも富士山を世界遺産にしておくためには、一人一人が登山マナーや安全に気をつける。様々な施設を利用していきにあたっては、応分の負担を心掛ける。こうした当事者意識を持つことが大事なんだ

富士山 登頂

